教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	ライフステージ別がん専門リハビリ療法士養成コース（正規課程）
対象職種・分野	修士課程大学院生(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)・腫瘍リハビリテーション医学
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	・がんリハビリテーションに関して、ライフステージごとに異なる知識・スキル、病期（予防・回復・維持・緩和）に応じた実践方法を習得することで、がん患者特有に生じる各種機能障害を予防、治療するためのリハビリを行える専門療法士(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)を養成する。 ・個々の専門職の特性を生かして、がんチーム医療の中でリハビリを実践する臨床能力を身につけ、腫瘍リハビリ医学に関する臨床研究を実践する能力を習得し、国際的に活躍し指導的役割を担うリーダーを育成する。
修了要件・履修方法	選択必修科目26単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。
履修科目等	選択必修科目26単位以上を修得したうえで、以下の①、②、③を充足すること。修士論文の審査に合格すること。 ＜必修科目＞医学概論(基礎的概論)(5単位)、医療倫理学(2単位)、医学概論(ヒトの構造・機能・病態概論)、医学方法論(2単位)、研究臨床体験プログラム(1単位)、医科学特別研究(16単位)、ヘルスエコノミクス(4単位)、産業経済分析：ヘルスケア産業(4単位)　①以下の選択科目を履修し、単位を修得する：リハビリテーション医学(2単位)、がんのリハビリテーション学(2単位)；②以下の全ての修士・博士課程併設設置科目を選択科目として履修し、単位を修得する：医学統計学(2単位)、基礎腫瘍学(2単位)、臨床腫瘍学(2単位)、先端ゲノム医学(1単位)；③博士課程「緩和医療学」を聴講する。
がんに関する専門資格との連携	リハビリテーション科専門医（日本リハビリテーション医学会）の研修施設として認定。「がん患者リハビリテーション料」、「リンパ浮腫複合的治療料」の算定要件を満たす施設として認定。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	2016年12月に改定されたがん対策基本法に「がん患者の状況に応じた良質なリハビリテーションの提供が確保されるようにすること」が追加され、がんリハビリテーションに関する施策を推進する方針となった。しかしがん専門医療機関においてすら、がんリハビリテーションが十分実施されていない。 これまでのがんプロのがんリハビリテーションのコースは本学、京都大学、神戸大学のみであり、引き続き推進すべき分野であり、がんリハビリにフォーカスした修士課程コースは極めてユニークであり、独創性がある。 本コースではがんサバイバーシップケアとしてのリハビリテーションの取り組みを含めた体系的な教育プログラム・コースを構築しており、がん患者のライフステージや病期別に、がんサバイバーシップケアとしてのがんリハビリテーションの診療と研究を体系的に学べるという点で新規性がある。
指導体制	がん医療の質の向上等により、がんサバイバーが増加しつつある中、がんサバイバーに対するケアの推進が喫緊の課題であるが、リハビリテーション診療は、治療と仕事の両立支援、介護予防、終末期の療養生活の維持・向上の観点からも、重要な役割を担う。がんリハビリテーションのエキスパートである指導教授・担当教官がマンツーマンで各地域でリーダーとなるリハビリテーション専門職の養成を行う。
修了者の進路・キャリアパス	・本大学博士課程への進学　・がん専門医療機関へ就職し、各地域において、がんリハビリテーションを実践する指導者となる。
受入開始時期	令和6年4月

受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5

受入目標人数設定の考え方・根拠	
	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。

履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1					1